

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

●会津大学コンピュータ理工学研究科

「創造工房とアリーナに基づく革新的 IT 教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

産業界が求めるグローバルな環境で活躍できる IT スペシャリストの養成を目的としていることから、産業ニーズに基づく先端領域を開設し、先進的知識と実用的スキルを学ぶ多彩な科目群を設置したこと。このことにより高度な IT リーダーとして欠かさない総合的な知識技術の修得を可能にさせた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

国内企業の助言や提案をもとにコース設計し、国内外の企業や大学から講師を招聘し、実践的な授業を行った。外部講師には事前にプログラムの趣旨を説明し理解していただいた上で、企業人として培った実践的かつ最先端の知識と経験を学生に修得させることを目的とし、授業を実施していただいた。また集中講義や遠隔講義といった授業形態をとることで、学生にとってはフレキシブルな履修が可能となり、講師にとっても日程調整や利便性の面でメリットとなったと思われる。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

外部講師による講義に対するアンケートでは、95%が自身の知識や技術の向上に役立ったとの回答しており、実践的内容で実地に役立つ内容であったとのコメントが多くあった。幅広い分野の多彩な科目を設け選択肢を増やすことで、学生は個々の目標に合った学習をカスタマイズできるようになり、イニシアティブに選択したコース設計で、学生自身のキャリアプランにも役立つ体系的な知識の習得がなされたと考えられる。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

②産業界等、社会のニーズと大学院教育のマッチングを図るための企業等との教育連携

●会津大学コンピュータ理工学研究科

「創造工房とアリーナに基づく革新的 IT 教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

チームによる実践的問題解決と開発実務教育に焦点を当て、PBL 型のソフトウェア開発アリーナをカリキュラムに組み込み、企業と連携したプロジェクトを行った。新たな試みとして、実際に企業（テプコシステムズ）で用いられている現行システムを移行する「レガシーマイグレーション」を立ち上げ、社会人を含むチームがプロジェクトに取り組んだ。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

指導教員の他、アドバイザーやコーチらが企業と事前に協議検討を重ねた上で、円滑なプロジェクト遂行ができるよう企業と学生チーム間のサポート体制を整えた。また社会人学生を考慮して、1.5 年での修了を目指した履修やプロジェクトを設計し、計画的に学習を進めることで在学期間を短縮することができた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

プロジェクトリーダーを交代制にすることで、プロジェクト全体を把握し、マネジメントする能力を養うことにつながり、さらにコンテストや国際学会での参加を義務付けたことによって、チームとして、また個人としての国際的競争力を意識した能力の向上がなされたと思われる。